

令和9(2027)年度

東京大学学校推薦型選抜 学生募集要項



出願期間：令和8(2026)年11月1日(日)正午頃～11月6日(金)17時

面接日程：令和8(2026)年12月12日(土)・12月13日(日)

目 次

I	東京大学学校推薦型選抜のアドミッション・ポリシー	1
1	東京大学の使命と教育理念	1
2	期待する学生像	1
3	学校推薦型選抜の基本方針	1
II	学校推薦型選抜実施日程	2
III	出願に当たっての注意事項	3
1	本学一般選抜（前期日程）との併願について	3
2	他の国公立大学との併願について	3
3	大学入学共通テストについて	3
4	提出書類・資料について	3
5	後期課程への進学について	4
6	障害等のある入学志願者について	4
IV	出願資格	4
V	募集人員	4
VI	推薦要件等	5
VII	入学者選抜方法	5
1	大学入学共通テストの受験を要する教科・科目	5
(1)	法学部、経済学部、文学部、教育学部、教養学部	6
(2)	工学部、理学部、農学部、薬学部、医学部、教育学部、教養学部	8
2	各学部の面接等の日程と会場	9
VIII	各学部の教育研究と推薦要件・面接方法等	9
1	各学部の教育研究	9
2	各学部の推薦要件・面接方法等	9
IX	出願期間・出願の流れ等	10
1	出願期間	10
2	出願の流れ	10
3	注意事項	11
X	提出書類・資料	12
XI	合格者発表	13
1	第1次選考の結果発表・通知	13
2	最終合格者発表・通知	14
3	個人別成績の通知	14

XII	入学手続	14
XIII	入学後の学修	15
1	各学部が主に対応する科類	16
2	前期課程における科類の特徴	16
(1)	文科一類	16
(2)	文科二類	16
(3)	文科三類	16
(4)	理科一類	16
(5)	理科二類	16
(6)	理科三類	16
XIV	各学部の学部長メッセージ・推薦要件・面接方法等（詳細）	17
1	法学部	17
2	経済学部	21
3	文学部	24
4	教育学部	28
5	教養学部	31
6	工学部	35
7	理学部	41
8	農学部	45
9	薬学部	49
10	医学部 医学科	53
	健康総合科学科	57
参考	過去の学校推薦型選抜（旧推薦入試）入学者数等	60

個人情報の取扱いについて

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「東京大学の個人情報等に関する取扱規則」に基づいて取り扱います。

- 1 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。
- 2 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- 3 上記1及び2の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。については、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供します。
- 4 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入学共通テストの受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願の国公立大学に送付します。
- 5 出願に当たって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用します。

不測の事態が発生した場合、本選抜に関する情報提供は次のウェブサイト等により行うので、出願及び受験の直前は特に注意してください。

URL https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html

I 東京大学学校推薦型選抜のアドミッション・ポリシー

1 東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野を持った市民のエリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養と更に豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずです。本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

2 期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

3 学校推薦型選抜の基本方針

東京大学の学校推薦型選抜は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

学校推薦型選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、若しくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、学校推薦型選抜で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

Ⅱ 学校推薦型選抜実施日程

日 程	項 目
令和8(2026)年 10月15日（木）正午頃 ～11月6日（金）17時厳守	・ 志願者によるインターネット入学志願票作成 ※出願に当たって、志願者がインターネットを利用して志願者情報等を登録する必要があります。
11月1日（日）正午頃 ～11月6日（金）17時厳守	・ 高等学校による出願（提出書類・資料のアップロード）
12月1日（火）15時	・ 第1次選考結果発表（本学ウェブサイトに掲載） ・ 学校長及び志願者宛に「結果通知書」を送付 ・ 第1次選考合格者に東京大学学校推薦型選抜受験票等送付 ※第1次選考合格者は、共通テスト出願サイトのマイページより「成績請求チケット」を自身で取得し、印刷したチケットを12月22日（火）までに提出。「成績請求チケット」は12月10日（木）以降に発行 possible の予定。
12月12日（土）・13日（日）	・ 面接等実施 ※学部ごとの日程の詳細は9ページ参照
12月22日（火）必着	・ 大学入学共通テスト成績請求チケット提出期限
令和9(2027)年 1月16日（土）・17日（日）	・ 大学入学共通テスト（本試験）実施
1月23日（土）・24日（日）	・ 大学入学共通テスト（追試験）実施
2月10日（水）12時頃	・ 最終合格者発表（本学ウェブサイトに掲載） ・ 学校長及び志願者宛に「結果通知書」を送付
2月11日（木）～17日（水）必着	・ 入学手続

Ⅲ 出願に当たっての注意事項

1 本学一般選抜（前期日程）及びUTokyo College of Designとの併願について

- ・ 学校推薦型選抜に出願しても、本学が実施する一般選抜（前期日程）への出願は可能です。ただし、別途出願手続を行う必要があります。詳細は「令和9年度東京大学入学者募集要項（前期日程）」を確認してください。なお、学校推薦型選抜に合格し、2月17日（水）までに入学手続を行った者は、一般選抜（前期日程）を受験してもその合格者となりません。また、一般選抜を受験し成績開示を請求した場合も、成績は表示されません。
- ・ UTokyo College of Designとの併願は認めません。

2 他の国公立大学との併願について

- ・ 本学を含め、国公立大学の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す場合、課さない場合を含めて）へ出願できるのは、1つの大学・学部です。また、他の国公立大学の総合型選抜（旧AO入試）に出願した者は、本学の学校推薦型選抜に出願することはできません。
- ・ 学校推薦型選抜に不合格となった場合に備えて、別途、国公立大学・学部（※）の一般選抜に出願することができます。つまり、「前期日程」で試験を実施する大学・学部から1つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部から1つの合計2つの大学・学部に出願することができます。なお、本学では、「後期日程」試験は実施していません。

※ 独自の日程で入学者選抜を行う公立大学・学部については、公立大学協会ウェブサイト（<https://www.kodaikyo.org/>）を参照。

3 大学入学共通テストについて

- ・ 志願者は、令和9年度大学入学共通テストのうち、志望する学部が指定する教科・科目の全て（「Ⅶ 入学者選抜方法」を参照）を受験してください。なお、本学では大学入学共通テストの過年度の成績は利用しませんので、令和9年度大学入学共通テストを必ず受験してください。

4 提出書類・資料について

- ・ 提出書類・資料に不備がある場合は受理しません。
- ・ 出願手続後は、いかなる理由があっても、提出書類・資料の変更は認めません。
- ・ 受理した提出書類・資料は、いかなる理由があっても返却しません。
- ・ 出願手続に不正の事実があった場合には、入学許可の後であってもこれを取り消します。
- ・ 所定の方法（10～13ページ「Ⅸ 出願期間・出願の流れ等」および「Ⅹ 提出書類・資料」を参照）によらずに提出された書類・資料は受理しません。

5 後期課程への進学について

- ・ 本学に入学を許可された学生は、教養学部 に所属して前期課程2年間の学修をした後、後期課程へ進学します。
- ・ 学校推薦型選抜による入学者が後期課程で進学する学部・学科等は出願時の志望により決定されます。ただし、前期課程の修了要件を満たす必要があります。

6 障害等のある入学志願者について

- ・ 本学では障害等のある者が、受験上及び修学上不利になることがないように、必要な配慮を行っており、そのための相談を常時受け付けています。受験上の配慮については、内容によって、対応に時間を要することもありますので、出願する前のできるだけ早い時期（原則として9月中）に東京大学入試事務室まで相談の上、申請書類を請求してください。
- ・ 相談の結果、受験上の配慮が必要であると判断される場合には、本学所定の申請書を送付しますので、医師の診断書等必要書類を添えて、原則として9月末までに提出してください。本学でその内容を審査の上、それぞれの障害の種類・程度に応じた受験上の配慮を決定します。また、必要な場合には、志願者等との面談等を行うこともあります。

IV 出願資格

出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校を令和7(2025)年4月以降に卒業した者及び9(2027)年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を令和7(2025)年4月以降に修了した者及び令和9(2027)年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月以降に修了した者及び令和9(2027)年3月31日までに修了見込みの者

V 募集人員

令和9(2027)年度学校推薦型選抜において、入学を許可する学生の募集人員は、100人程度です。

なお、各学部等の大まかな募集人員は、次のとおりです。また、合格者が募集人員に満たない場合には、原則として、残余の募集人員は、各学部（医学部においては、医学科、健康総合科学科）が主に対応する科類（16ページ）の一般選抜（前期日程）の募集人員に繰り入れます。

法学部	10人程度	経済学部	10人程度
文学部	10人程度	教育学部	5人程度
教養学部	5人程度	工学部	30人程度
理学部	10人程度	農学部	10人程度
薬学部	5人程度	医学部医学科	3人程度
		医学部健康総合科学科	2人程度

VI 推薦要件等

学校長は、次の要件の全てに該当する者を合計4人、ただし、男女は、各3人まで推薦できることとします。男女いずれかのみが在学する学校においては、推薦できる人数は3人となります。

また、同一学部への推薦は、男女各1人までとします（医学部においては、医学科と健康総合科学科への出願は可）。

なお、同一の志願者を複数の学部推薦することはできません（医学部においては、医学科と健康総合科学科の併願も不可）。

- 学部ごとに定める推薦要件（17～59ページ）に該当し、当該学部の学問分野に対する強い関心及びこれを本学で学ぶ積極的な意欲を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者
 - 合格した場合、必ず入学することを確約できる者
 - 令和9年度大学入学共通テストのうち、志望する学部が指定する教科・科目の全てを受験する者
 - 高等学校等を令和7(2025)年4月以降に卒業した者及び令和9(2027)年3月卒業見込みの者
- ※ 推薦要件に関して個別の判断（審査）を要する事前の問い合わせ（具体的な活動実績や受賞歴、語学力、学校成績等が推薦要件に該当するか等の質問）には答えません。

VII 入学者選抜方法

合否判定は、提出書類・資料、面接等、及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価して行います。具体的には、次の(1)～(3)のとおり実施します。

- (1) 提出書類・資料により第1次選考を実施します。
- (2) 第1次選考合格者に対して学部ごとに面接等を実施します。
面接等の実施方法の詳細については、17～59ページを参照してください。
- (3) 提出書類・資料、面接等、及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価した上で、最終合格者を決定します。

なお、大学入学共通テストは、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、概ね8割以上の得点であることを目安とします。

※ 入学者選抜方法に関して具体的な審査方法、面接内容の質問等には答えません。

1 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

志願者は、令和9年度大学入学共通テストのうち、志望する学部が指定する教科・科目の全てを受験してください。指定された教科・科目を1つでも受験していない場合は、合格者にはなりません。また、教育学部及び教養学部については、次の(1)、(2)のいずれで受験をしても構いません。

(1) 法学部、経済学部、文学部、教育学部、教養学部

(6 教科 8 科目又は 7 教科 8 科目 [配点合計 1000 点])

教 科	科 目	科 目 選 択 の 方 法	配 点
国 語	『国語』	必 須	200 点
地理歴史	『地理総合, 地理探究』 『歴史総合, 日本史探究』 『歴史総合, 世界史探究』	左の 5 科目のうちから 2 科目を選択 ただし、『公共, 倫理』及び『公共, 政治・ 経済』の 2 科目を選択することはできません。 公民から 1 科目選択する際は、地理歴史 から 1 科目選択してください。	200 点
公 民	『公共, 倫理』 『公共, 政治・経済』		
数 学	『数学Ⅰ, 数学 A』 『数学Ⅱ, 数学 B, 数学 C』	必 須	200 点
理 科	『物理基礎／化学基礎／生物 基礎／地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	左の基礎を付した科目を選択 (4 つの出 題範囲から 2 つを選択解答) ただし、「基礎を付していない科目」を 2 科目選択した場合には、「基礎を付した科 目」を選択したものとみなします。 ^(注 1) なお、理科の時間において「基礎を付し た科目」を含め 2 科目選択した場合は、第 1 解答科目の成績を合否判定に利用しま す。 ^(注 2)	100 点
外 国 語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択	200 点 (注 3)
情 報	『情報Ⅰ』	必 須	100 点

- (注 1) (1) 「基礎を付した科目」とは、『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』を指します。
 (2) 「基礎を付していない科目」とは、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』を指します。
 (3) 第 1 解答科目として、『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』と、第 2 解答科目として、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』の 4 科目の中から 1 科目を選択した場合には、「基礎を付した科目」を利用します。(注 2 も参照のこと)
 (4) 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』の 4 科目の中から 2 科目選択した場合には、合計得点 (200 点満点) を 100 点満点に換算して利用します。なお、「基礎を付していない科目」を選択した場合の教科・科目の合計数は、6 教科 9 科目又は 7 教科 9 科目となります。
- (注 2) 「理科」の試験時間に 2 科目を受験した場合において、前半の 60 分間で解答した科目を第 1 解答科目、後半の 60 分間で解答した科目を第 2 解答科目といいます。(詳細は、大学入試センター Web サイト <https://www.dnc.ac.jp/>等を参照してください。)

なお、「理科」の試験時間において「基礎を付した科目」と、「基礎を付していない科目」のいずれかを選択する場合には、「基礎を付した科目」を第 1 解答科目にて選択してください。

たとえ、第2解答科目で「基礎を付した科目」を受験しても、本学が指定する科目を受験したことになりません。

(注3) 外国語の『英語』は「リーディング」100点と「リスニング」100点、計200点満点を「リーディング」140点満点、「リスニング」60点満点に換算して利用します。(※)

(※) 聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」を200点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記(200点満点)の成績を利用します。

(2) 工学部、理学部、農学部、薬学部、医学部、教育学部、教養学部

(6 教科 8 科目 [配点合計 1000 点])

教 科	科 目	科 目 選 択 の 方 法	配 点
国 語	『国語』	必 須	200 点
地理歴史	『地理総合，地理探究』 『歴史総合，日本史探究』 『歴史総合，世界史探究』	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択 なお、地理歴史及び公民の試験時間において 2 科目を受験した場合には、第 1 解答科目の成績を合否判定に利用します。 ^(注 1)	100 点
公 民	『公共，倫理』 『公共，政治・経済』		
数 学	『数学Ⅰ，数学 A』	必 須	200 点
	『数学Ⅱ，数学 B，数学 C』	必 須	
理 科	『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	左の 4 科目のうちから 2 科目を選択	200 点
外 国 語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択	200 点 (注 2)
情 報	『情報Ⅰ』	必 須	100 点

(注 1) 「地理歴史，公民」の試験時間に 2 科目を受験した場合において、前半の 60 分間で解答した科目を第 1 解答科目、後半の 60 分間で解答した科目を第 2 解答科目といいます。(詳細は、大学入試センターウェブサイト <https://www.dnc.ac.jp/> 等を参照してください。)

(注 2) 外国語の『英語』は「リーディング」100 点と「リスニング」100 点、計 200 点満点を「リーディング」140 点満点、「リスニング」60 点満点に換算して利用します。(※)

(※) 聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」を 200 点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記 (200 点満点) の成績を利用します。

2 各学部の面接等の日程と会場

各学部（医学部においては医学科または健康総合科学科）の面接等は、次の日程で実施します。文学部は、第1次選考合格者全員に12月12日（土）及び13日（日）の両日にわたって、工学部は、12月12日（土）及び13日（日）のいずれか学部が指定する日に面接等を行います。

試験会場 キャンパス	学部・学科	日 程
本 郷	法学部	12月12日（土）
	経済学部	12月12日（土）
	文学部	12月12日（土）・13日（日）の両日
	教育学部	12月12日（土）
	工学部	12月12日（土）・13日（日）の いずれか学部が指定する1日
	理学部	12月12日（土）
	農学部	12月12日（土）
	薬学部	12月12日（土）
	医学部医学科	12月12日（土）
	医学部健康総合科学科	12月12日（土）
駒 場	教養学部	12月12日（土）

※ 集合時間や会場建物等については、「東京大学学校推薦型選抜受験票」等送付時（12月1日（火）頃）にお知らせします。

VIII 各学部の教育研究と推薦要件・面接方法等

1 各学部の教育研究

各学部の教育研究の内容については、次の本学ウェブサイトを参照してください。

法 学 部	https://www.j.u-tokyo.ac.jp/
経済学部	https://www.e.u-tokyo.ac.jp/
文 学 部	https://www.l.u-tokyo.ac.jp/
教育学部	https://www.p.u-tokyo.ac.jp/
教養学部	https://www.c.u-tokyo.ac.jp/
工 学 部	https://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/
理 学 部	https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/
農 学 部	https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
薬 学 部	https://www.f.u-tokyo.ac.jp/
医 学 部	https://www.m.u-tokyo.ac.jp/

2 各学部の推薦要件・面接方法等

各学部の推薦要件・面接方法等については、17ページ以降の詳細を参照してください。

Ⅸ 出願期間・出願の流れ等

1 出願期間

志願者によるインターネット入学志願票作成：

令和8(2026)年10月15日(木)正午頃～11月6日(金)17時厳守

高等学校による出願(提出書類・資料のアップロード)：

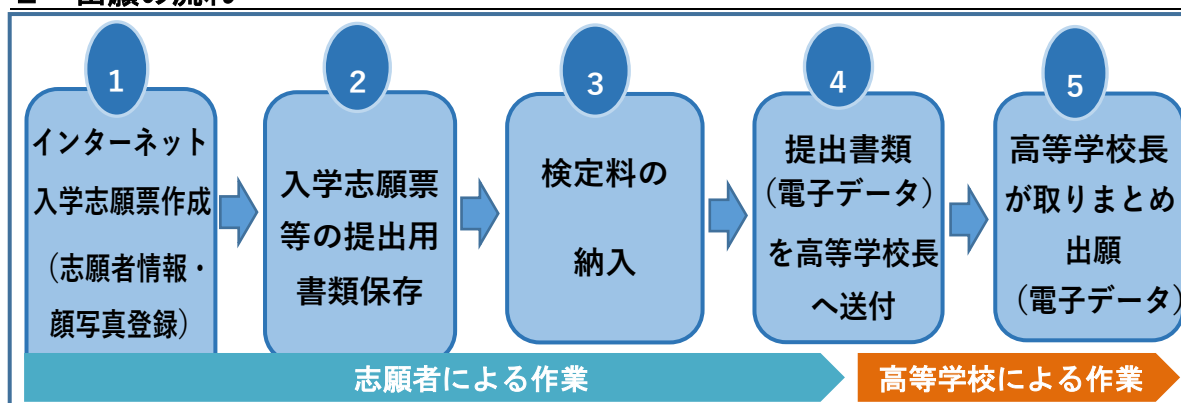
令和8(2026)年11月1日(日)正午頃～11月6日(金)17時厳守

※ インターネット入学志願票作成を行っただけでは出願したことになりません。

提出書類・資料のアップロードを行うことで出願が完了します。

※ 出願期間最終日は17時までです。

2 出願の流れ



1 インターネット入学志願票作成(志願者情報・顔写真登録)

- インターネット入学志願票作成サイトは、10月15日(木)正午頃に、本学ウェブサイト(【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html)に掲載します。
- 登録画面に従って、出願学部、志願者氏名、高等学校等名などの志願者情報を登録してください。
なお、志願者情報の登録では、途中での一時保存はできませんので、最後まで通して登録してください。
- 顔写真データ(JPEG形式、システム上で縦4cm×横3cmにトリミング可、上半身・正面・脱帽・背景無地のもので、最近3か月以内に撮影したカラー写真)アップロードのため、必ず事前にデータを準備してください。

2 入学志願票等の提出用書類保存

- インターネット入学志願票作成(1)後に表示される「提出用書類」(PDFファイル)を保存してください。

【保存する書類】

入学志願票

①で登録した内容を保存したPDFファイル。

(④において高等学校にPDFデータを送付)

3 検定料の納入

(支払方法等の詳細は、インターネット入学志願票作成時に確認できます。)

- インターネット入学志願票作成（①）後、指定された期限内（登録完了時から48時間以内。出願締切日当日は17時00分まで）に、「コンビニエンスストア」、「Pay-easy」、「クレジットカード（VISA、MasterCard、JCB、AMEX、DINERS）」のいずれかの方法で検定料17,000円をお支払いください。支払う際には、別途手数料がかかります。その手数料は志願者が負担することになります。
- 検定料を支払ったことがわかる書類（領収書、ATM利用明細書、決済完了後に送付されるメールなど）は、結果発表まで保管をお願いします。（送付いただく必要はありません）
- 風水害等の災害により被災し、検定料の免除を申請する場合は、事前に入試事務室（nyuusi3.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）へ連絡してください。
 ≪参考≫ 風水害等の災害により被災した入学志願者の検定料の免除について
 【URL】<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/kenteiryomenjo.html>
- 第1次選考不合格者に対しては、13,000円を返還します。返還方法等については、12月1日（火）以降に通知します。前述の場合を除いて、いかなる理由があっても検定料は返還しません。

4 提出書類（電子データ）を高等学校長へ送付

- ②で保存した「入学志願票（PDFデータ）」と、志願者が作成する「学校推薦型選抜志願書」（PDFデータ）、「学部が求める書類・資料」（PDFデータ）、学部が求める書類・資料一覧（Excelデータ）を高等学校長へ送付してください。
- 提出書類・資料は志願者と高等学校で協力しPDFデータに変換してください。

5 高等学校長が取りまとめ出願

- 高等学校で作成する書類と④をあわせて、高等学校がシステムを利用し電子データをアップロードしてください。（志願者自身によるアップロード及び郵送での出願は受け付けません。）
- 出願（提出書類・資料のアップロード）サイトは、11月1日（日）正午頃に、本学ウェブサイト（【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html）に掲載します。
- 登録画面に従って、②の入学志願票記載の出願受付番号、高等学校等名、高等学校担当者名、高等学校担当者メールアドレス、高等学校担当者電話番号、志願者氏名などの高校出願情報を登録してください。
 なお、高校出願情報の登録では、途中で一時保存はできませんので、最後まで通して登録してください。
- 複数の志願者がいる場合は、1件につき1人ずつアップロードしてください。
- 令和8(2026)年11月1日（日）正午頃～ 11月6日（金）17時の期間中に必ずアップロードしてください。
- 提出書類・資料の詳細は、12～13ページ「X 提出書類・資料」を確認してください。
- 受理後、本人及び学校長に受験番号を郵送にて送付します。

3 注意事項

- インターネット入学志願票作成サイト及び出願（提出書類・資料のアップロード）

サイトは、登録完了前にブラウザを閉じたり、30分間操作しなかったりした場合、完了しません。始めから出願登録をやり直してください。

なお、前の画面に戻る際、ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。

- インターネット入学志願票作成サイト及び出願（提出書類・資料のアップロード）サイトを利用する際は、ユーザ登録を行う必要があります。ユーザ登録を行うことで、登録及びアップロード完了後、登録及びアップロードした情報を確認することができます。
- 上記 ① ～ ⑤ の全てを行うことで、出願登録の手続は完了します。インターネット入学志願票作成を行っただけでは出願したことになりません。

X 提出書類・資料

- ・ 出願に当たって提出を要する書類は、次頁の表に示したものです。なお、様式名を□で囲んだ書類は志願者自身が作成してください。
- ・ 志願学部等に応じ、書類を取りまとめ、高等学校からアップロードにより提出してください。
- ・ 提出書類の様式は、本学ウェブサイト当該年度に掲載の最新のもの（【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_28.html）を使用してください。様式は、学部（医学部は学科）ごとに異なりますので注意してください。
- ・ 提出書類は、特に指定のない限り日本語で作成してください。
- ・ 各書類において求める志願者の学習成果等については、原則として、高等学校等在学中のものとします。ただし、出願時に高等学校等を既に卒業又は修了している者（以下既卒者という）は、卒業又は修了後の活動について指定の様式により「既卒者の卒業後の活動報告」として提出することができます。
- ・ 調査書や推薦書を含め、全ての書類・資料についてPDFデータに変換し提出してください。（Excelデータで提出する「学部が求める書類・資料一覧」は除く）
- ・ 提出された書類・資料は一切返却しません。
- ・ 志願者が準備する全ての資料については、その内容等を含め学校側で事実と相違ないと判断したうえで提出してください。
- ・ 所定の方法（10～13ページ「IX 出願期間・出願の流れ等」および「X 提出書類・資料」を参照）によらずに提出された書類・資料は受理しません。
- ・ 入学志願票、調査書以外の様式において、字数制限がない箇所で記入スペースが足りない場合には、記入欄の枠を拡大するか、別紙として添付してください。別紙を添付する場合は、記入欄にその旨を記入した上で、別紙の冒頭においてどの記入欄に対応するものであるかを明示してください。
- ・ 押印の必要がない提出書類は、可能な限り、スキャンしてPDF化するのではなく、テキスト情報を残した状態のPDFデータ（A4サイズが望ましい）としてください。また、パスワードを付す等、セキュリティ設定はしないでください。
- ・ 書類・資料、様式毎に1ファイルとなるようにPDFデータを作成してください。
- ・ 「学部が求める書類・資料」は、1つのPDFファイルしかアップロードできません。複数資料がある場合は統合し、ページ番号を付してください。また、資料番号やしおりを付す、PDFデータを開いたときに文字が読める向きにページを回転しておくなど、志願者が工夫をして見やすいPDFファイルを作成してください。また、推薦要件

に合致するよう、内容を精査してください。

- ・ アップロード可能な6つのファイルの合計サイズは、100MBまでとなっています。
超えないようにファイルサイズの調整、資料の取捨選択をしてください。

様式名	備考
01入学志願票	志願者によるインターネット入学志願票作成（志願者情報入力・顔写真登録）後、作成された志願票(PDFデータ)を高等学校に送付し、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。
02調査書	各高等学校で使用している様式をPDFデータに変換して、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。 押印が必要となります。デジタル印を押印するか押印した書類をスキャンしてPDF化してください。
(様式1) 03学校推薦型選抜志願書	本学ウェブサイトに掲載している、志願学部（様式1）学校推薦型選抜志願書を使用してください。 PDFデータに変換して、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。
(様式2) 04推薦書	本学ウェブサイトに掲載している、志願学部（様式2）推薦書を使用してください。 PDFデータに変換して、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。 押印が必要となります。デジタル印を押印するか押印した書類をスキャンしてPDF化してください。
05学部が求める書類・資料一覧	本学ウェブサイトに掲載している、志願する学部の様式を使用し、下記の「学部が求める書類・資料」の一覧を作成してください。 Excelデータのまま、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。
06学部が求める書類・資料	学部が求める書類・資料は、学部（医学部は学科）ごとに異なります。詳細は、17～59ページを確認してください。 学部が求める書類・資料（論文、表彰状、新聞や雑誌記事、国際通用性のある入学試験の成績、語学力等の証明書、コンクールやコンテストの成績等）は、いずれもPDFデータに変換して、1つのPDFファイルに統合し、項目ごとに「しおり」をつけるなど整理したうえで、高等学校が出願（提出書類・資料のアップロード）サイトから提出してください。 国際通用性のある入学資格試験の成績、語学力等の証明書についても発行機関からの直送は受け付けません。 成績等が記載されたインターネット画面をPDF化したもの等を提出しても構いません。 「既卒者の卒業後の活動報告」を提出する場合には、「学部が求める書類・資料」の最後に添付してください。

XI 合格者発表

1 第1次選考の結果発表・通知

令和8(2026)年12月1日(火) 15時頃、第1次選考合格者の受験番号を本学ウェブサイトに掲載します。併せて、学校長及び志願者宛に「結果通知書」を簡易書留郵便で送付します。第1次選考合格者には、「結果通知書」のほか、「東京大学学校推薦型選抜受験票」、「成績請求チケット(国公立推薦型選抜用)貼付台紙」、「受験者心得」及び「入学手続要領についての案内」を送付します。

このうち、「成績請求チケット(国公立推薦型選抜用)貼付台紙」については、共通テスト出願サイトのマイページで入手した「成績請求チケット(国公立推薦型選抜用)」を貼付し、封筒(サイズ等任意)に入れ、令和8(2026)年12月22日(火)必着で、次の宛先へ簡易書留郵便で送付してください。

※本学の学校推薦型選抜においては、大学入学共通テスト電子出願システムに対応していないため、「チケット方式」で提出してください。なお前述のチケットは、令和8(2026)年12月10日(木)以降に発行可能となる予定です。

※利用可能なチケットは、「国公立推薦型選抜用」となります。「国公立総合型選抜用」ではありませんので、十分に注意してください。

※なお、本学の一般選抜(前期日程)に出願する場合は「Web方式」により共通テストの成績請求を行う必要がありますので、注意してください。

【宛先】 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 入試事務室 学校推薦型選抜担当

2 最終合格者発表・通知

令和9(2027)年2月10日(水) 12時頃、最終合格者の受験番号を本学ウェブサイトに掲載します。併せて、学校長及び志願者宛に「結果通知書」を簡易書留郵便で送付します。

3 個人別成績の通知

個人別成績の通知を希望する者は、「個人別成績通知用切手貼り付け用紙」([【URL】
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_28.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_28.html)に掲載)を印刷の上、記名及び所定欄に送料分(435円)※の切手(簡易書留はがき郵送用で本人宛に送付のため)を貼付し、封筒(サイズ等任意)に入れ、令和8(2026)年12月22日(火)必着で、次の宛先へ送付してください。

※簡易書留料は改定される可能性があるため、送付前に上記URLをご確認ください。

【宛先】 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 入試事務室 学校推薦型選抜担当

上記1に記載の「成績請求チケット(国公立推薦型選抜用)貼付台紙」の封筒(サイズ等任意)に同封して、送付することも可能です。

切手を貼り付けていない場合及び切手額が不足している場合は、「成績通知不要」として処理します。

個人別成績は通知を希望した本人に、令和9(2027)年4月中旬頃に郵送します。

住所を変更する場合、最寄りの郵便局の窓口「転居届」を必ず届けてください。

XII 入学手続

最終合格者は、14ページ「XI 1 第1次選考の結果発表・通知」に記載の「入学手続

要領についての案内」を確認し、入学手続を完了させてください。以下の期間内に入学手続を完了しない場合は、本学の学校推薦型選抜合格者としての権利を失います。

なお、本学に入学手続を行った者は、これを取り消して他の国公立大学・学部に入學手続を行うことはできないので注意してください。また、入学手続を行った者は、他の国公立大学・学部の一般選抜を受験しても、その合格者とはなりません。

【入学手続期間】令和9(2027)年 2月11日(木)～2月17日(水)

※ 学校推薦型選抜の合格者が、特別の事情により本学に入学することが困難となった場合は、当該者の推薦を行った学校長からの「入学辞退願」を令和9(2027)年2月17日(水)正午までに入試事務室に提出し、許可を得なければなりません。許可されなかった場合若しくは、入学手続を行わなかった場合は、他の国公立大学・学部の一般選抜を受験しても、その合格者とはなりません。

XII 入学後の学修

学校推薦型選抜による入学者は、入学後、文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の6つの科類のうち、志望学部が合格発表時に個別に指定する科類に分かれ、教養学部にも所属して前期課程の学修を行います。前期課程修了後は、出願時に志望した学部・学科等へ進学します。

前期課程においては、学校推薦型選抜による入学者について、学生の志望分野に対する関心や学ぶ意欲にきめ細かく応えることが可能となるよう、早期に専門教育に触れる機会^{*}の提供や、学修について個別に助言・支援する教員の配置などの措置を講じます。

※ 早期に専門教育に触れる機会については、学部毎に内容が異なります。18ページ以降の各学部の「(3)学校推薦型選抜入学者に対する教育方針」をご確認ください。なお、当該欄において「受講」及び「履修」と記載しているものは単位の取得を前提としますが、「参加」と記載しているものは必ずしも単位の取得を伴いません。

1 各学部が主に対応する科類

法学部	文科一類
経済学部	文科二類
文学部	文科三類
教育学部	文科三類又は理科一・二類
教養学部	文科三類又は文科一・二類、理科一類又は理科二類
工学部	理科一類又は理科二類
理学部	理科一類又は理科二類
農学部	理科二類又は理科一類
薬学部	理科二類又は理科一類
医学部医学科	理科三類
医学部健康総合科学科	理科二類

2 前期課程における科類の特徴

(1) 文科一類

法と政治を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と社会について広い見識を養います。

(2) 文科二類

経済を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と組織について広い見識を養います。

(3) 文科三類

言語、思想、歴史を中心にして人文科学全般の基礎を学び、関連する社会科学と自然科学の分野にわたって理解を深め、人間と文化的・社会的営為について広い見識を養います。

(4) 理科一類

数学、物理学、化学を中心にして数理科学・物質科学・生命科学の基礎を学び、自然の基本法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

(5) 理科二類

生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、自然の諸法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

(6) 理科三類

生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、人間についての探究心を養い、生命と社会の関わりについても理解を深めます。

1 法学部

受験生及び高等学校関係者の皆様へ

私たちの社会で生じる問題は、どのように解決されているのでしょうか。また、解決すべきでしょうか。そして、問題を解決するために、社会はどのような考え方に基づき、どのように成り立っているのでしょうか。こうした問いについて、歴史的考察、国際比較、実証分析等の方法も用いて、広い視野から議論を立て、異なる立場、異なる観点を持つ人との間で議論することに関心を有し、このような能力の向上を志す受験生の皆様に、法学部は歓迎します。

AI等のデジタル技術の急速な発展と社会での利用、気候変動やパンデミックをはじめとするリスク、ウクライナや中東情勢をめぐる問題など、昨今、私たちの認識を大きく変えるような様々な課題がグローバルに発生しています。こうした社会課題は、既存の判断枠組みを単に当てはめるだけでは解決しません。社会を成り立たせる基本的な考え方に立ち返って、現実の課題や社会条件を分析し、基本的な考え方をもう考え直すことが必要です。このように、本選抜で求められる能力を有する人材のニーズは、ますます高まっています。法学部としては、困難な社会状況の中でも、そして困難な社会状況にあるからこそ、このような人材を引き続き強く求めています。

本選抜で求められる能力は、外形的な基準だけでは判定できないと考えられます。法学部におきましては、提出書類・資料、グループ・ディスカッション、個別面接により、丁寧に審査を行います。

受験生の皆様が高等学校への入学後に積み重ねてきた活動を振り返り、出願を積極的に検討していただくことを望んでおります。皆様の出願をお待ちしています。

東京大学法学部長 橋爪 隆

法学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	現代社会、とりわけグローバルな場でリーダーシップを発揮する素質を持つ学生。すなわち、優れた基礎的学力を備えるとともに、現代社会のかかえる諸問題に強い関心を持ち、実社会の様々な事象から解決すべき課題を設定する能力、さらには他者との対話を通じて、その課題の解決に主体的に貢献する能力を有する学生。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	グローバルな場で活躍するために基礎となる幅広い視野をそなえ、法的思考と政治学的識見の基礎を身に付けた人材の養成をめざす教育を行います。 本入試で入学した学生に対しては、学生の関心に応じて発展的内容の学習を可能にするため、教養学部前期課程1年生から法学部専門科目の受講を許可し、法学部進学後に法学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。法学部3年生以降においては大学院（法学政治学研究科総合法政専攻）の授業科目の受講を許可し、法学部の選択科目として単位認定します^{※a}。また、履修について個別的に助言・支援する教員を配置します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 学業成績に秀でていること。（第3学年第1学期までに履修した全教科（美術などの実技技術科目を含む）の学業成績に基づいて、志願者が文系・理系を含めた学年全体で原則として上位概ね5%以内であること） ② 現実の中から本質的な問題を発見し、独創的な形で課題を設定する能力を有すること。 ③ 問題の解決に向けてイニシアティブを発揮できること。 ④ 異なる文化的背景や価値観を有する他者とのコミュニケーション能力に優れていること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料^{※b}。 例えば、 ・ 在学中に執筆した論文（グループで作成した論文は認めない）で、志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの^{※c} ・ 社会に貢献する活動の内容を具体的に証明する資料（表彰状、新聞記事など） ・ 留学経験など、志願者が異なる文化的背景や価値観への理解を有することを示す資料（留学の事実を証明する資料、外国人との交流や支援活動を行ったことを示す第三者の推薦状など） ・ 国際通用性のある入学資格試験における優秀な成績を証

	明する資料（国際バカロレア、SATなど） ・ 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSKなど） などです。 以上はあくまでも例示であり、志願者が本学部の推薦要件に合致することを証明できる資料であれば、上記以外の資料でもかまいません。
(6) 面接等の方法	グループ・ディスカッション及び個別面接を行います。グループ・ディスカッションは、その場で与えられたテーマについて、少人数のグループで議論してもらい、論理的思考力、発想力、コミュニケーション能力などを審査します。個別面接では、提出書類・資料に関連する質問などを通して、法や政治に対する関心と、それを学ぶ能力とを確認します。

※a 一部の科目には受講できないものもあります。

※b 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

※c 論文は、何らかの意味で社会に関わるテーマを扱うものとします。法学や政治学に関するものである必要はありません。高校の授業の一環として作成された論文であるかどうかは問いません。また、校内・校外のコンクールで入賞した論文であるかどうかも問いません（入賞した事実があれば賞状のコピー等を添付してください）。論文の分量の目安は、日本語の場合、図表部分を除いて6,000字以上としますが、分量よりも内容が重視されます。参照した文献やインターネット情報等については、論文末尾に「参考文献」として一括提示するだけでなく、引用箇所にその都度出典・情報源を注記してください。

2 経済学部

受験生、推薦者の皆様へ

東京大学経済学部は、それぞれの学問分野のフロンティアで国際的に活躍する多様な教授陣が研究教育活動を行い、将来を嘱望される優秀な学生が日々勉強に勤しんでいます。私たちは研究教育を通して、社会に貢献してきました。しかし、私たちが住む社会をさらに前進させるには、卓越した能力を持つ尖った人が必要です。また、尖った人が活躍できる環境作りも重要です。東京大学経済学部は、尖った人の能力を伸ばし、尖った人が活躍する環境づくりを応援しています。優れた素質を花開かせるには、高度な教育を受け、さまざまな刺激を受けることが重要です。東京大学経済学部は、多様で優れたプログラムを有し、尖った才能を開花させます。

東京大学経済学部長 粕谷 誠

経済学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	新しい事業または社会の枠組みを創造しようとする高い志を持ち、その礎となる卓越した能力を有する学生。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	それぞれの学生の才能を生かすために必要な、経済社会の複雑な諸現象を体系的に理解する能力を養成します。前期課程において、履修に関する相談や支援をする学部教員を配置し、必要に応じて本郷での講義・演習への参加を許可します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者としてします。 ① いずれかの分野で高等学校等の生徒として卓越した才能を有すること（必ずしも学術分野に限らないが、上の「求める学生像」にふさわしい能力であること）。 ② 他者との対話性に優れ、経済分野に強い関心を有すること。 ③ 高等学校等において英語、数学、地理歴史、公民のうちいずれかの教科において成績が優秀^{※a}であること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件の①に該当すると判断できる客観的根拠を示す資料（少なくとも1つ、複数提出可）の提出を求めます。 例えば、 ・ 全国レベルあるいは国際レベルのコンテストやコンクール（例えば数学オリンピック）での入賞記録あるいは論文採択記録 ・ 英語その他の外国語に関する語学力の試験（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSKなど）において高得点を取ったこと示すもの ・ 留学を含む様々な国際的活動で、その内容が第三者によって高く評価されたものについて、その詳細や評価内容を記した文書（新聞記事など）^{※b} などです。 以上はあくまでも例示であり、本学部の推薦要件に合致することを証明できる資料であれば、上記以外の資料でもかまいません。 ※ 上記の資料と併せて、本人が執筆した特に優れた論説や論文などを添付することも可能です。
(6) 面接等の方法	個別面接を行います ^{※c} 。

※a 当該教科について高等学校等内で上位10%に入る成績をおさめていること。

※b 本人、所属校、受け入れ校以外の第三者が評価したもの。例えば、新聞の記事になった事例や現地の公的機関で表彰された事例など。留学を伴わない国内での国際的活動を含む。

※c 面接時間は30分程度を予定しています。面接時に課題遂行能力を試すための課題を課す場合があります。

3 文学部

受験生のみなさま

文学部では、人間の思想、歴史、言語、社会についての強い問題意識をもち、そのために何を学ばばいいのかを考えながら、独自の探究を進める力を有する学生を求めています。

人類の文化を未来へ継承し、新たな可能性を切り開くには、どうすればよいのでしょうか。その答えを探求する道筋はさまざまです。高等学校までの学びの中で、自分なりに工夫を重ねて課題に向き合ってきた受験生、そして、大学でさらに多様な視点や方法論を学び、異なる考え方を持つ人たちと対話しながら物事への理解を深めたいと願っている受験生は、ぜひとも学校推薦型選抜への応募を検討してください。

選抜の過程では、いままでどのようなことをしてきたのか、文学部で何を学びたいのか、なぜ学びたいと考えたのか、そのためにどのような準備を進めているのかを、明確にかつ説得力をもって表現する力が問われます。

高等学校の先生方におかれましては、上記の趣旨をご理解いただいたうえで、優れた能力と強い意欲のある受験生を積極的にご推薦くださいますようお願い致します。

東京大学文学部長 村本 由紀子

文学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	人間のさまざまな精神的営み（言語・文学・思想・芸術等）や、人間の織りなす社会の歴史と現代の諸問題に関する探究心に富み、自らの考えたことを口頭発表や論文などを通して他者に伝える能力を有し、将来、社会的な貢献が期待できる学生。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	入学当初の高い勉学意欲と人間・社会に対する関心を維持し、より高度な専門的知識に裏付けられた学修へとつなげるために、随時指導・助言を行うとともに、前期課程から必要に応じて文学部の講義・演習の参加を認めます。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者としてします。 ① 学業成績に秀でていること。 ② 人文社会系諸学に関連する分野において、卓越した能力を有することを示す実績があること、あるいは課外活動などの社会貢献活動において、優れた成果をあげたこと。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、論文（日本語で書かれたもの）の提出を求めます。提出論文では、在学中に「総合的な学習の時間」や自主的な研究活動、社会貢献活動などを通じて学んだことをもとに、文学部でさらに追究したいと考えていることについて論じてください※ ^a 。 上記の論文のほかにも、推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類があれば、提出してください。 例えば、 ・ 自主的な研究活動または社会貢献活動の具体的内容や成果を示す資料 ・ 雑誌等に発表された論文※ ^b ・ 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSKなど） ・ 何らかの賞を受けた場合は、それを証明する書類などです。
(6) 面接等の方法	1日目に小論文を課し、2日目に面接を行います。 面接では、志願者が提出した論文や「志願理由書」にもとづき、在学中の自らの学習・研究活動または社会貢献活動等の内容、及び文学部で学びたいことに関して7分以内のプレゼンテーションを行います。その後、プレゼンテーション内容その他について面接教員との質疑応答を行います※ ^c 。

※^a 論文について

- ① 参照した先行文献やインターネット情報等に関しては、末尾に「参考文献」として一括掲示するだけでなく、個々の参照箇所に、脚注などを用いて適切に参照元の情報を提示してください。

- ② なるべくワープロ・ソフトを用いて作成してください。分量は、注や参考文献一覧も含めて4,000～8,000字程度を目安とします。

※b 雑誌等に発表された論文について

論文はコピーでもかまいませんが、掲載誌の表紙と発行年等を示す奥付のコピーも添えてください。また、日本語・英語以外の言語で執筆されたものについては、全文の日本語訳も添付してください。

※c プレゼンテーションについて

資料を提示したい場合は、事前に作成したポスター1枚に限り使用を認めます（ポスター上に別紙を貼付することはできません）。ポスターのサイズは最大で120cm×85cm（A0サイズ相当、レイアウトは自由）とします。

4 教育学部

受験生の皆様・学校長の皆様

学校推薦型選抜をご検討いただきありがとうございます。教育学部は、自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力を有し、本学部で学びたいという強い意欲をお持ちの皆さんの受験を心より歓迎いたします。

募集要件にある「国際的若しくは全国的なコンクールやコンテストでの受賞歴、あるいは、学会の高校生セッション等での発表経験」について、少し補足します。これは該当するものがあれば証明する資料を提出してくださいという趣旨であって、必須ではありません。受賞歴や発表経験がないから出願ができないというわけではありません。皆さんが真摯に取り組んだ探究学習の成果資料を丁寧に審査いたしますので安心して出願してください。

学校長の皆様におかれましては、以上の点をご理解の上、本学部の学校推薦型選抜に志願者を積極的にご推薦いただけますようお願い申し上げます。

東京大学教育学部長 勝野 正章

教育学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力を有する学生。これまでに取り組んだ探究学習は特に教育分野に限定しないが、なぜ教育学部を志望するのかについて明確な考えをもっていることを求めます。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	発達・教育に関する諸現象についての理解を深め、研究する能力を身に付けるため、前期課程から、教育学部専門科目を必要に応じて受講できるものとし、教育学部進学後に教育学部卒業に必要な単位として認定します。また、履修について個別に助言・支援するアドバイザー教員を配置します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者としします。 ① 本学のカリキュラム履修に必要な、教科の基礎学力があること。 ② 探究学習の卓越した実績・能力を、論文、作品、発表等を通じて示すことができること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当することを示す客観的根拠となる以下の資料の提出を求めます。 ・ 在学中に作成した論文、作品、発表の内容を示す資料等で志願者の卓越した探究能力を示すもの。 ・ 上記に関して、国際的若しくは全国的なコンクールやコンテストでの受賞歴、あるいは、学会の高校生セッション等での発表経験などがある場合、それを証明する資料。
(6) 面接等の方法	発表と個別面接を行い、総合的に審査します。発表は、出願時に提出した資料（論文、作品、発表等に関するもの）の内容について行うものとします※ ^a 。発表に続いて、他の受験者も参加して質疑応答を行います。個別面接では、面接官と「自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力」、「教育学部を志望する理由」などについて質疑応答を行います。

※^a

- ・ 発表用資料を使用する場合は、PDFファイル・1ページに限り認めます。大学で用意するパソコンを使用し、試験室のスクリーンに投影する形となります。
- －PDFファイルの原稿は、A0サイズ・横向き（幅118.9cm×高さ84.1cm）を目安に作成したもの。
- －2ページ以上のPDFファイルやPDF以外のファイルは不可。
- －提出期限は、令和8（2026）年12月9日（水）12時00分（正午）。
- ・ なお、発表時に原稿を読み上げたり、手元にメモ等を置いて参照しても構いませんが、それらを資料として配布することはできません。
- ・ 詳細については、第1次選考合格者に対して通知を行います。

5 教養学部

出願を検討されている受験生ならびに高等学校関係者のみなさま

教養学部は、1949年の学部創立時以来、「学際性」「国際性」「先進性」をキーワードとして先端的な教育を推進し、日本の各界をリードする人材を輩出してきました。自然科学分野の統合自然科学科、人文社会科学分野の教養学科、そして文理融合分野の学際科学科の3つの学科を擁し、学術的な分野の幅広さに対応した教育体制を敷いています。分野横断型の教育カリキュラムである学融合プログラムを複数備えていることもその特徴です。

現代は、単一の国家や地域では対応することのできないさまざまなグローバルな課題が頻出しています。また、それと連動して、国家や地域におけるローカルな課題も頻出しています。これら複雑で現実的な諸課題に向きあうためには、文系と理系という区分や、一つの特定の専門性だけにとらわれない柔軟な学びの姿勢が必要です。専門性をもちつつも文理にわたる学際領域へと学生の関心をひきつけ、かつ学問の分野横断を積極的に推奨する教養学部ほど、このような学びに適した学部はありません。

東京大学は、学士課程を前期課程と後期課程の二つに分け、すべての学生は前期課程として教養学部在籍し、その後進学選択によって後期諸学部に進学します。つまり、後期課程で教養学部に進学する学生は、前期・後期課程合わせて四年間を教養学部のある駒場で過ごすことになります。学校推薦型選抜で入学する学生には、前期課程在籍中に後期課程の科目を前倒しで履修し、後期課程進学後に単位を認定する制度もありますが、同じキャンパス内に前期課程と後期課程がある教養学部では、この制度を有効に活用することができます。授業の多くが少人数の形式をとっており、学生と教員との日々の密接なコミュニケーションの上に成り立っていることも、教養学部の学びを実質化させることに寄与しています。

教養学部は、みなさんが高等学校での特色ある優れた学びや活動を最大限に活かし、この選抜を活用されることを願っています。

東京大学教養学部長 寺田 寅彦

教養学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	文系理系を問わず、複数の学問分野を横断する関心や新しい分野に挑戦する意欲を持ち、将来にわたって、人類社会の直面する諸問題の解決を目指す高い志を持つ学生。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	多様な世界への好奇心を絶やさず、現代社会の諸課題に取り組む能力をそなえた学生を育成します。 ① 1年次からの海外研修を奨励し、さまざまな支援を行います。 ② 後期課程につながる専門的学習について助言・支援する教員を、入学者の志望分野に合わせて個別に配置します。 ③ 科目担当教員の助言に基づいて、教養学部専門科目を前期課程において早期履修することを認めます。履修した科目は、教養学部後期課程進学後に卒業に必要な単位として認定します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 自ら課題を発見して探究する卓越した能力を持つ者。 ② 高等学校等で履修した2つ以上の科目（志望分野に関連する科目を含む）で卓越した能力を持つ者。 ③ 国際的な活動についての経験、若しくは関心を有する者。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠として、以下のいずれかの資料（複数可、ただし①については重要と思われる資料を3点まで）※^aの提出を求めます。 ①在学中に執筆した課題論文等、および当該論文等の性質を説明する資料（授業の課題として執筆されたものか、課外活動に関連して執筆されたものか等）※^b ②科学オリンピックなど志望分野にかかわる各種コンテストの成績※^c ③外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSKなど） ④国際通用性のある入学資格試験の成績を証明する資料（国際バカロレア、SATなど） ⑤その他、特筆すべき活動の成果※^d
(6) 面接等の方法	面接による審査を行います※ ^e 。

※^a 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関とその連絡先を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

- ※b グループによる成果の場合は、本人の貢献部分についての説明も加えてください。資料作成者は、校長または担当教員等とし、作成者の所属・役職等・氏名も記載してください。
- ※c 当該コンテストの概要を説明する資料及び成績を証明する資料を添付してください。グループによる成果の場合は、本人の貢献部分についての説明も加えてください。
- ※d 国際活動や地域・社会貢献活動など、特にアピールしたいものがある場合は、その概要と成果を説明する資料を添付してください。(A4用紙4ページ以内にまとめてください。)
- ※e 面接試験当日、面接に先立って、原則として志望学科・コースの学問領域に関する問題意識や必要な能力を問う小論文等を課します。なお、(5)で「外国語に関する語学力の証明書」を提出した場合には、外国語の面接を行うことがあります。

6 工学部

出願を検討されている受験生ならびに高等学校関係者の皆様、

工学は、基礎科学を追究する分野、追究して得られた知の社会実装を主導する分野、新しい融合領域を開拓する分野など、極めて広い領域をカバーしており、その研究・開発のスケールも多岐に亘ります。地球と人類社会にとってより良い未来を創ること、そして新しい時代を切り拓いていくことが、工学の大きな目標であり使命です。さらに、一人ひとりが多様な幸せ（ウェルビーイング）を実現できる社会を目指し、新たな価値を創造、「知の活力」を生む、いわゆる「総合知」による社会変革にも貢献します。

工学部では、理数系分野における特に秀でた能力、明晰で柔軟な思考力を有し自ら課題を設定し幅広く学修する能力、異なる思考様式や文化的背景を持つ人々と協力してグローバルな問題を発見し解決できる能力を重視しています。あわせて、社会の多様な課題を科学技術を通じて解決することに強い関心・意欲を持ち、専門知識を駆使して社会課題解決やイノベーションを先導する意欲のある学生を求めています。

提出して頂く説明書では、皆さんがどのようなことに関心・意欲を持ち、目標に向かってどのような工夫や努力をしてきたのか、その内容を明確かつ具体的に語ってください。工学部では、「求める学生像」であることを客観的に示す提出資料として公的な受賞歴や資格等の証明を必須とはせず、皆さんが自ら語る言葉を重視しています。

今まさに、世界は大きな変革期、激動の時代にあります。私たちと工学を学び、新たな価値を創造し、課題を解決しましょう。未来を創る意欲にあふれる皆さんの出願をお待ちしています。

東京大学工学部長 津本 浩平

工学部

(1) 募集人員	30人程度
(2) 求める学生像	社会の多様な課題を科学技術を通じて解決することへの強い関心・意欲を持ち、専門知識を駆使して社会課題解決やイノベーションを先導することに主体的に貢献することが期待できる学生、ならびに、以下のいずれか（または複数）の能力を有する学生。 ① 理数系分野における特に秀でた能力。 ② 明晰で柔軟な思考力を有し、かつ自ら課題を設定し幅広く学修する能力。 ③ 異なる思考様式や文化的背景を持つ人々と協力して、グローバルな問題を発見し解決できる能力。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	未踏分野の開拓や新たな技術革新に繋がる研究に果敢に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献するとともに、豊かな教養、科学技術に関する体系的な知識及び工学的な思考方法を身につけ、かつ多様性への理解と広い視野を持った人材を育成することを教育研究上の目的とします。 出願時には別表の7つの学科群のうちの第一志望、第二志望及び第三志望を選択します^{※a}。各学科群には受入上限数があります。なお、第一志望以外の学科群では入学を希望しない場合は第二志望および第三志望欄は空欄のまま、第一志望と第二志望以外の学科群では入学を希望しない場合には第三志望欄は空欄のままとしてください。 前期課程においては、学科群に対応して学生の志望分野につながる基礎的学習を行います。大学での学習を通じて工学の多様性を俯瞰し、自らが志望する分野の概要とこれを学ぶ意義を深く理解し、必要となる基礎学力を身につけることができるよう、学科群ごとに学習について個別に助言・支援する教員（アドバイザー教員）を配置します。 教養学部前期課程において工学部専門科目の受講を許可し、工学部進学後に工学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。また「主題科目」等により、後期課程ならびに大学院につながる、工学専門教育を早期に受ける機会を設けます。一年生から工学部学部生向けの海外研修やイベントに応募することができます。
(4) 推薦要件	高等学校等の学習内容、特に理数系教科の基礎学力を有しており、上記「(2) 求める学生像」にふさわしいことを客観的に示す推薦事由^{※b}を有すること。

(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す以下の資料^{※c} ① 上記「(2)求める学生像」に記載されている要件を客観的に示す説明書^{※d} ② 本人の能力をよく知る人物（高等学校等の内外を問わない）による推薦書2通以内^{※e} ※ 英語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTSなど）、国際通用性のある入学資格試験における成績を証明する資料（国際バカロレア、SATなど）があれば添付してください。なおこれらは上記①の「(2)求める学生像」にふさわしいことを客観的に示す推薦事由には含めません。
(6) 面接等の方法	提出書類・資料の内容の妥当性、推薦要件に示すような特に秀でた能力を面接により評価します。

※a 以下の表を参考にして出願する学科群を選択してください。

別表：学科群と関連する学修上のキーワード

◎ この学科群に強く関連するキーワード

○ この学科群に関連するキーワード

□ この学科群にある程度関連するキーワード

		推薦 入学者 受入 上限数	複数の学科 群にまたが るキーワー ド	建築、 都市、 社会 シス テム、 経営	機械、 熱・ 運動、 設計、 航空 宇宙、 自動 車	数理、 情報、 知能、 ロボ ット	物性、 電子、 ナノ・ マイ クロ、 分子	化学、 有機、 バイ オ、 細胞
学科群 1	社会基盤学科	9	エネ ルギ ー、シ ステ ム、 地球・ 環 境、人 間・ 生物、 数学、 物理	◎	□	□	□	□
	建築学科							
	都市工学科							
学科群 2	機械工学科	7			◎	○	□	□
	精密工学科							
学科群 3	機械情報工学科	8			□	◎	□	
	電子情報工学科							
	計数工学科							
学科群 4	航空宇宙工学科	3			◎	□		
学科群 5	電気電子工学科	8						
	物理工学科							
	マテリアル工学科 C							
学科群 6	マテリアル工学科 AB	9			□		○	◎
	応用化学科							
	化学システム工学科							
	化学生命工学科							
学科群 7	システム創成学科	7		○	○	○		○

※ 各学科の教育内容については、工学部ホームページ (<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/>) を参照してください。2年次の進学先の選択では、受験時に選択して合格となった学科群に属する学科に進学することを原則としますが、学科群の受入上限数を超えない場合には学科群を越えて工学部の学科を選ぶことができます。

※b 推薦事由の例

在学中の特に優れた成績、在学中に志願者が主導的な役割を果たしたことにより顕著な成果を挙げた活動（社会問題解決に取り組んだ社会貢献活動・国際的活動、部活動等）、大会・コンクールでの入賞につながった活動、特色ある研究活動・創造活動、顕著な成果をあげた数学・物理・化学・生物などでの活動等

- ※c 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。
- ※d 説明書では指定された書式を使用して、A4用紙4ページ以内にまとめてください。具体的な制作物等がある場合には、設計図面、プログラム、論文等を別途添付しても構いません。
- ※e 推薦書の作成者は、本人の能力を客観的に評価できる方であれば高等学校等の内外を問いませんが、2親等内の親族は除きます。
推薦書は指定された書式を使用して作成してください。

7 理学部

受験生の皆様・学校関係者の皆様

理学とは、自然界におけるあらゆる現象の理（ことわり）を解き明かす学問です。理学部は、その始まりが東京大学の創設と同じ明治 10 年（1877 年）にまでさかのぼり、現在では 10 学科（数学科、情報科学科、物理学科、天文学科、地球惑星物理学科、地球惑星環境学科、化学科、生物化学科、生物学科、生物情報科学科）から構成されています。理学部の学問領域は、地球環境や生物、物質といった身近な対象から、宇宙の誕生や素粒子のような非日常的な対象にまで及びます。また、対象とする時間・空間スケールもきわめて広大です。理学部では、一人ひとりの知的好奇心を原動力として、自然現象に潜む根源的な謎の解明に挑み、人類の知の地平を切り拓く研究を展開しています。

理学部では、自然科学に強い関心を持ち、自然科学の一つもしくは複数の分野において卓越した能力を有し、グローバルに活躍する意欲のある学生を募集しています。受験生の皆様がどのようなことに興味を持ち活動されてきたのか、その内容をアピールしてください。そして、これらを示すものとして、志願者には次の（i）と（ii）を有することを求めています。

（i）特に優れた成績や研究成果など

（ii）科学オリンピックなど各種コンテストでの入賞、学術雑誌などでの論文発表、ソフトウェア開発経験など

志願者が主導的な役割を果たし顕著な成果を挙げた活動には「研究活動」も含めておりますので、自然科学に関する志願者の研究活動についても、推薦者のお立場で記入していただくことができます。

積極的な出願をお願いいたします。

東京大学理学部長 田近 英一

理学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	自然科学への強い関心と知的探究心に富み、未知の問題の解決に挑戦し自然科学の発展に寄与すると共に、人類社会の持続的・平和的発展に貢献できること。 また、自然科学の諸分野の発展や産業界・社会の進展においてリーダーとなる資質を持つこと。 これらを達成する上で必要な自然科学における卓越した能力を有する学生を求めます。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	自然科学の多方面への関心と呼び覚まし、人類が築いてきた自然科学の基礎を身につけ、さらに各分野での専門的知識や経験を獲得することで、自然科学の研究者・教育者や産業界における人材として国際的に活躍できる創造力と表現力を備えたグローバルリーダーを育成します。 教養学部前期課程において理学部専門科目の受講を許可し、理学部進学後に理学部卒業に必要な単位として認定する場合があります(前期課程の単位とはなりません)。また早期から希望研究室で最先端研究の現場に参加できる機会として、学部前期課程に研究室実習制度を設けます。 学部前期課程2年次及び後期課程には、理学部が主催する国際交流プログラム(海外の研究施設訪問や学生交流など)への参加に優先措置を設けるなど、国際体験を奨励します。
(4) 推薦要件	次の三つの要件を全て満たすこと：①自然科学に強い関心を持ち、②自然科学の一つもしくは複数の分野において卓越した能力を有し、③グローバルに活躍する意欲があること。 これらを示すものとして、(i)特に優れた成績や研究成果(自主的な研究活動も含む)など、(ii)科学オリンピック <数学、物理、化学、生物学、地学、情報、天文など>、高校生科学技術チャレンジ、日本学生科学賞など、国内外で開催された各種コンテストでの入賞、学術雑誌などでの論文発表、商品レベルのソフトウェア開発経験など、(i)、(ii)のいずれかもしくは両方を有すること。 なお、志願者が主導的な役割を果たし顕著な成果を挙げた活動(例えば、研究活動、国際活動、社会貢献活動、芸術・文化、スポーツなどでの意欲的な活動やリーダーシップを発揮した活動など)も評価に加味します。

(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等^{※a}のほか、上記の推薦要件を満たすことを示す実績(i)、(ii)をもつことを裏付ける書類・資料の提出を求めます。具体的には以下のI、IIのとおりです。 I. 志願者の活動実績をよく知る人物による推薦書(高等学校等の内外を問わない) 2通以内^{※b} II. 推薦要件を満たすことを示す実績(i)、(ii)のいずれかもしくは両方をもつことを裏付ける資料 例えば、 研究成果(自主的な研究活動も含む)やその発表の記録、表彰状/認定証のコピー、受賞論文、科学雑誌などに掲載された論文、開発したソフトウェアの概要資料など^{※c}です。 ※ 英語に関する語学力の証明書(TOEFL、英検、IELTSなど)があれば添付してください。
(6) 面接等の方法	日本語により個別面接を行います。志望学科^{※d}を踏まえ、各学科で要求される基礎学力や思考力、コミュニケーション能力を確認するための質疑応答を行います。

※a (様式2)「推薦書」の「1. 推薦要件を満たす理由」欄には、(4)の三つの要件全てを満たす理由を具体的に記入してください。

※b (様式)「志願者の活動実績をよく知る人物による推薦書」(1通の提出は必須・合計2通以内)は、志願者の活動実績をよく知る方(高等学校等の内外を問わないが、2親等内の親族は除く。)が記入してください。「志願者の活動実績をよく知る人物による推薦書」は、日本語または英語で作成してください。

※c 当該実績が共同で行われた活動の成果である場合は、志願者の貢献度を説明する文書や資料を提出してください。開発したソフトウェアの概要資料には、ユーザ数・活用事例など、利用実績がわかる資料を添付してください。

※d 面接の結果、複数の学科に合格と判断する場合があります。また、第一志望の学科に合格するとは限りません。

8 農学部

出願を検討されている受験生ならびにご指導される教員のみなさま

農学部では、人類が生きていくために必要な食料、資源、環境、そして、その中での植物、動物、微生物等の生物と人類との関わり合いについて広く深く学びます。単に農業など一次産業のサポートだけでなく、SDGs（持続可能な開発目標）、One Health（ヒト・動物・環境の健康）、Nature positive（自然再興）、GX（グリーントランスフォーメーション）などの社会課題の達成を目指して、私たちの生命と健康を守り、地球環境の保全と社会の持続的な発展に貢献できる、国際性豊かな人材を育成していくことを教育の目標としています。

農学部では、各学部共通に求める調査書等のほか、農業・食料・生物資源・環境など農学に関する①研究成果あるいは論文、②活動実績等の資料、③各種コンテスト参加者はその成績のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めています。ただ、公に認められた成果がなくても、①～③に関わる活動の詳しい説明を準備できるならば、出願を諦めることはありません。農学部は従来から、外形的な成果情報だけでなく、内容や背景にある過程（プロセス）を吟味し、それに係わる受験生の皆さんの積極性、行動力、自主性、協調性およびリーダーシップも重要な評価の対象にしています。

食料を作り、それを食べて、安心な生活をおくり、ひととの適切なコミュニケーションをとって幸せに生きる、こんな当たり前の何げない生活に、農学は大きな貢献をしています。農学部に進学して、食、環境、資源、生命、健康といったキーワードを基軸に、人類の Well-being（幸福）を追求しつつ、かけがえのない地球の自然と人間との共生を実現するために一緒に歩んでいきましょう。

東京大学農学部長 東原 和成

農学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	動物・植物・微生物がもつ多様な機能に興味を持ち、自ら主体的にそれらを学び、深く究明し、さらに応用して社会に役立てたいという強い意欲を有する学生。特に、生命に対する理解をもとに、他の自然科学・社会科学・数理科学も含めた分野横断的なアプローチを幅広く取り入れながら、食料・生物資源・環境・生態系等に関わる諸問題の解決にグローバルな視点から貢献しようとする学生が望ましい。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	農学を構成する基礎・応用諸科学に関する専門教育を段階的・体系的に行い、農学に課せられた諸問題の解決に必要とされる高度な専門知識と幅広い視野を有し、社会の要請に応えることのできる人材を育成することを目的とします。 前期課程においては農学部の附属施設等を利用した早期実践教育プログラム（フィールド学習など）を優先的に提供します。また、必要に応じて農学部専門科目の受講を認め、農学部進学後に農学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。後期課程においては大学院授業科目への参加を認めます。加えて、学修について個別に助言する教員を配置し、前期課程・後期課程を通して一貫した教育支援を行います。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 高い基礎学力を有する成績上位者であること。 ② 農学とその関連分野^{※a}に関する特記すべき推薦事由を有すること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の①～⑤の資料のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。提出に当たっては、以下の項目の概要の説明書^{※b}を求めます。 ① 研究成果あるいは論文^{※c} ② 活動実績等の資料^{※d} ③ 各種コンテスト参加者はその成績^{※e} ④ 外国語の能力に関する検定試験等の記録 ⑤ その他特記すべき活動の記録
(6) 面接等の方法	提出書類・資料の内容の妥当性、コミュニケーション能力等を面接により評価します。面接の一部として、農学とその関連分野に対する興味と理解力を評価します。

※a 「農学とその関連分野」とは、農学及びそれを構成する基礎・応用諸科学を指し、生物学をはじめ、農業・食料・生物資源・環境等に関連する広範な分野を含みます。

※b 各項目の説明書は、資料が複数であっても項目ごとに、それぞれ500字程度で作成してください。また、個人で行ったものかチームで行ったものか、チームの場合はその中での役割、貢献の程度または割合等を明示してください。

※c 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 研究成果を証明する資料や論文等の成果物
- ・ 各種学会・研究会での発表を証明する要旨等の資料

※d 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 「総合的な学習の時間」等での活動成果
- ・ インターンシップ、ボランティア、農業実体験、国際会議への参加等の活動を証明する資料
- ・ 農学、生物学もしくは農業・食料・生物資源・環境等の問題に関連する各種の検定試験等の成績など

※e 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 国内大会の成績、国際大会の準備チームに選出されたか、国際大会に選手として出場したか、国際大会に出場した場合の成績など

9 薬学部

受験生の皆様・学校長の皆様

薬学部では広い分野の自然科学をカバーする総合的な生命科学の教育と研究を行っています。くすりを創ることを創薬と言いますが、先端的な創薬はさまざまな自然科学分野を統合して達成されます。例えば新型コロナウイルス感染症のワクチン開発には、基礎生物学、基礎医学、有機化学、生物物理学、薬剤送達技術の先端的な研究成果が凝縮されています。薬学部の学生は自然科学を広く学んでいることから、専門が異なる分野への理解力が高く、日常的に異分野との共同研究を行なっています。

このように学際的に自然科学を学べることが薬学部の特徴であり、私たちは自然科学に興味のある学生を広く受け入れています。伝統的に研究を重んじる気風のある薬学部で私たちが期待するのは、自然科学への強い好奇心や探究心を持ち、主体的に課題を見つけてそれを解決しようとする意欲のある学生です。

薬学部には、薬科学科と薬学科があります。薬科学科では、製薬関連はもちろん、幅広い分野での大学・国公立研究所・企業における研究者などの養成に主眼をおいた教育を行なっています。薬学科では、学生が研究をしながら薬剤師資格取得を目指し学んでいます。高度化医療などの社会的要請に応えることのできる高度薬剤師の育成を教育方針としています。

高等学校の先生方におかれましては、上記薬学部の特徴と求める学生像をご理解いただき、薬学部の学校推薦型選抜を目指す学生の出願をサポートしていただけますよう、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

東京大学薬学部長 浦野 泰照

薬学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	薬学分野は、化学・生物・物理・情報・医療の幅広い領域にまたがります。一度に数十億人もの人命を救うことのできる“くすり”を創り出すためには、このような自然科学分野のいろいろな角度での基礎研究が必要です。そこで薬学部では、自然科学一般への強い好奇心、探究心を持ち、かつ未知の分野に積極的に挑戦し、主体的に課題の発掘ならびに解決を行うことのできる学生を求めています。自然科学における卓越した能力を有し、人類社会の持続的発展、健康、幸福に貢献する意欲のある学生に期待します。 また、グローバルな視野を有し、多様な価値観を柔軟に受け入れ、リーダーとして活躍する資質を持つ学生を歓迎します。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	薬学部は、生命科学研究や創薬研究を牽引する人材、薬剤師などとして医療高度化を推進する人材、また薬学分野に留まらず幅広い自然科学分野で活躍する高い素養を持った人材の育成を目指します。 そこで、化学・生物・物理・情報・医療を含む幅広い分野の専門教育を段階的・体系的に行い、高度な専門知識と広い視野を持って、グローバルリーダーとして社会貢献するために資する教育を行います。 特に学校推薦型選抜入学者については、前期課程在学中に薬学部教員の指導の下に研究室において、最先端の研究に触れる機会を認めます。
(4) 推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 ① 高い基礎学力を有する成績上位者であること。 ② 上記「(2) 求める学生像」に記載されている (a) 自然科学一般への強い好奇心、探究心を持つこと (b) 主体的に課題の発掘ならびに解決を行う能力を有すること (c) (a)(b)以外にも、リーダーとして活躍する資質を持つことなど「求める学生像」にふさわしいこと のそれぞれを客観的に示す推薦事由^{※a}を有すること。

(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す以下の資料^{※b} ① 上記「(2)求める学生像」に記載されている (a)自然科学一般への強い好奇心、探究心を持つこと (b)主体的に課題の発掘ならびに解決を行う能力を有すること (c) (a) (b)以外にも、リーダーとして活躍する資質を持つことなど「求める学生像」にふさわしいことのそれぞれを客観的に示す説明書^{※c} ② 本人の能力をよく知る人物(高等学校等の内外を問わない)による推薦書^{※d}0～2通
(6) 面接等の方法	個別面接を行います ^{※e} 。

※a 推薦事由の例

在学中の特に優れた成績、在学中に志願者が主導的な役割を果たしたことにより顕著な成果を挙げた活動（社会問題解決に取り組んだ社会貢献活動・国際的活動、部活動等）、大会・コンクールでの入賞につながった活動、特色ある研究活動等顕著な成果をあげた化学・生物・物理・情報などでの活動等。

※b 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

※c 説明書では指定された書式を使用して、A4用紙4ページ以内にまとめてください。具体的な制作物等がある場合には、論文等を別途添付しても構いません。

※d 推薦書の作成者は、本人の能力を客観的に評価できる方であれば高等学校等の内外を問いませんが、2親等内の親族は除きます。推薦書は指定された書式を使用して作成してください。

※e 個別面談では、学校等における特筆すべき活動、薬学部の志望理由、大学・大学院卒業後の自己の将来像に関して発表していただきます。志願者は必要に応じて、A4用紙2ページ程度の資料（図表を含めることも可）を配布することができます。発表内容と提出書類・資料に基づき、本人の学力・思考力・コミュニケーション能力等を審査します。

10 医学部

受験生・学校関係者の皆様

医学は生命現象を明らかにするという学術としての重要性を一方で持ち、他方では人類の福祉に貢献し、疾病の克服を実現するという点で応用科学としても大きな意義を持つ学問です。本学の医学部では教育目的・理念として、「生命科学・医学・医療の分野の発展に寄与し、国際的指導者になる人材を育成すること」を掲げています。そのために、学生には「創造的研究を遂行し、臨床においては、その成果に基づいた全人的医療を実践しうる能力」を身に付けてもらうことを目指しています。以上を鑑み、医学部がどのように学校推薦型選抜を行うのかについてより明確にするため、学校推薦型選抜への応募を考えている生徒さんや高等学校の先生方に向けてこのメッセージを発信しています。

医学部の教育には、職業教育としての医師養成教育の側面と、医学生命科学分野での研究能力の養成の側面があり、東京大学医学部には世界をリードする医学研究者を育成するという使命があります。学校推薦型選抜募集要項にあるように、例年に引き続いて東京大学医学部が求める学生像にあった人材が多く応募されることを期待しています。求める資料の例として、医学科としては、国内外の各種オリンピックなどのコンテストの成績資料や TOEFL や IELTS などの成績資料を挙げています。健康総合科学科においても、高いチャレンジ精神を示す課外活動や研究発表会、コンテストに関わる資料などが例示されています。しかし、これらはあくまで「例示」であり、その他の校内活動や生徒の潜在能力を示す事例などを推薦の資料としていただいて結構です。医学・健康科学・医療の発展に貢献する人材の養成は人類の福祉に深く関わることであり、医学部の重要なミッションです。高等学校教員の皆様におかれましては、医学研究の重要性を認識し、健康科学への貢献への思いを強くする生徒さんのポテンシャルを見出し、それをアピールしていただいて、積極的にご推薦いただけますようお願い申し上げます。

東京大学医学部長 南學 正臣

医学部医学科

(1) 募集人員	3人程度
(2) 求める学生像	- 生命現象のしくみの解明、疾病の克服及び健康の増進に寄与する医学研究を推進するため、学校推薦型選抜枠を医学研究者養成枠と位置づけ、最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者を育成するために活用します。 - そのために、未知の生命現象の発見や革新的な医療につながる研究を長期的な視野のもとに実行する意欲と能力を持つ学生を受け入れ、サマープログラム等を活用した研究体験、学部進学後のPh. D. -M. D. コース（医学部在学中の大学院進学制度）への参加などを通じてリサーチマインドと研究能力を育成します。 - また医学を学ぶにあたってはバランスのとれた人格と高い基礎学力が要求されるため、これらの点で基準を満たす学生を選抜します。
(3) 学校推薦型入学者に対する教育方針	在学中に生命現象のしくみの解明、疾病の克服及び健康の増進に寄与する医学研究について幅広い知識と経験を身に付け、卒業後は最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者へと発展する人材を育成します。 1. 教養学部前期課程在籍時：以下の教育プログラムを提供します。 ① 医学部が駒場キャンパスで提供する「メディカルバイオロジー入門コース」などの講義への参加。 ② 本郷キャンパスにおける分子細胞生物学の教科書を利用した少人数教育への参加。 ③ 夏季休業期間等を利用した医学部研究室での実習への参加。 2. 医学部医学科進学後：以下の①のカリキュラムに3年生、4年生として参加し、その後に②のカリキュラムに参加することを原則とします。 ① MD研究者育成プログラム：基礎医学の研究志向の学生を対象とした教育プログラム。通常医学科カリキュラムと並行して研究室での実験を行い、研究マインドを養成することを目的とします。海外短期留学、研究に必要な英語トレーニングなども実施。他大学との学生交流のための行事を開催。 ② Ph. D. -M. D. コース：医学部在学中に大学院に進学し、学位取得後に医学部に戻るコース。早期に本格的な研究体験を積むことを目的とします。本コース在学中は奨学金を支給します。

(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 高い基礎学力とバランスのとれた人格を持つこと。 ② 生命科学・医学研究への意欲と能力を持つこと。 ③ 医学部進学後に研究者養成のための特別カリキュラムへの参加を望むこと。 ④ 自然科学の領域においてきわめて高い能力を持つこと。 オプションとして、非常に優れた語学力（英語力）とそれに伴う豊富な国際経験も評価に入る。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す資料（少なくとも1つ、複数提出可〔ただし、A4で50ページを上限とする〕）の提出を求めます。 例えば、 ・ 日本生物学オリンピック、国際生物学オリンピック、高校生科学技術チャレンジ、International Science and Engineering Fair (ISEF)、全国物理コンテスト、国際物理オリンピック、全国高等学校化学グランプリ、国際化学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する資料^{※a} などです。 ・ きわめて高い英語の語学力（TOEFL iBT 100点以上〔2026年1月以降受験の場合は新スケールで5以上〕あるいはIELTS 7点以上に相当する英語力）及び豊富な国際経験を示す資料をオプションとして提出することもできます。^{※b} 以上は例示であり、これらの資料に限るものではありません。
(6) 面接等の方法	高等学校等からの推薦書類に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います^{※c}。その内容及び能力の確認のための質疑応答などを行い、適性を判断します。

※a これらの大会に関連した以下の情報について記載した資料を提出してください。

- ・ 参加したコンテストの名称、参加年度
- ・ 国内大会の成績
- ・ 国際大会の準備チームに選出されたか
- ・ 国際大会に選手として出場したか
- ・ 国際大会に出場した場合の成績

参加、成績等の証明書が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

※b 以下の2種類の資料を提出してください。

- ・ 語学力については、TOEFLあるいはIELTSの成績を示す書類を添付してください

い。それ以外の検定試験の場合には、TOEFL iBT 100点以上(2026年1月以降受験の場合は新スケールで5以上)あるいはIELTS 7点以上という基準と同等であることが明確である書類を添付してください。

- ・ 国際経験についてはA4用紙3ページ以内（およそ5,000字以内）で具体的な経験を本人が説明する文章を添付してください。

※c 面接審査に関連して以下の準備を行い、資料を提出してください。

- ・ 志願者は事前にパワーポイントファイルを作成し、面接審査の説明に使用してください。面接ではパワーポイントファイルを投影し、それを使って高等学校等在学中に行った主に自然科学に関連した活動と大学入学後の抱負について10分程度で説明してもらいます。パワーポイントファイル及びプレゼンテーションの使用言語は、原則として日本語ですが、英語も使用できます。発表内容に関連した知識・能力について確認するための質問等を行う予定です。グループで行った活動の場合、本人の貢献した部分が明確になるように説明してください。
- ・ 面接でのプレゼンテーションの内容を事前に把握するため、発表の概略をA4用紙5ページ以内で説明したものを出願時に提出してください。面接の際に使用するパワーポイントファイル自体を出願時に提出する必要はありませんが、図・表・写真などを出来るだけ使用して、プレゼンテーションの内容をわかりやすく説明するよう工夫してください。
- ・ 第1次選考合格者は、面接に使用するパワーポイントファイルを令和8年12月8日（火）12時00分（正午）までに提出してください。
- ・ 面接の際には提出したパワーポイントファイルを大学側で用意したPCに入れて試験室のスクリーンに投影できるようにしますので、それを使ってプレゼンテーションしてください。
- ・ Windows10以降のWindows、PowerPoint 2016以降のPowerPointを用いて作成してください。動画、音声を使ってはいけません。枚数制限はありませんが、10分程度のプレゼンテーション時間で説明できる長さにしてください。
- ・ パワーポイントファイルをPDFファイルとしても保存し、正しく表示されているかを確認したのち、あわせて提出してください。大学側で用意したPCでパワーポイントファイルが正しく表示されない場合、PDFファイルを使ってプレゼンテーションをお願いすることも考えられます。
- ・ 提出するパワーポイントファイルについてのさらなる詳細については、後日第1次選考合格者に対して通知を行います。

医学部健康総合科学科

(1) 募集人員	2人程度
(2) 求める学生像	現代社会における私たちの健康にかかわる問題は多様化している。少子高齢化、人口減少・偏在は国家と社会の持続性をゆるがす可能性があり、新興・再興感染症、環境変動は地球に暮らす人類全体の脅威となっている。また、情報化社会の進展に伴い、情報過多やデジタル技術・人工知能の普及が人々の健康や生活様式に与える影響も新たな課題となっている。生殖医療・再生医療など、倫理的な問題が解決されていない課題も少なくない。家族・コミュニティー機能の衰退、国際人口移動による文化的軋轢など、健康問題の背景も複雑化している。 健康総合科学科では、このような現代の健康課題について、既存の学問領域にとらわれず、問題解決を志向しつつ創造的に学び、現代と未来の人々の健康に貢献できる人材を求める。
(3) 学校推薦型選抜入学者に対する教育方針	医療保健分野におけるグローバルリーダーとなる人材を育成します。特に学校推薦型選抜入学者の個性的な知的探究心や行動力を伸ばすよう配慮するとともに、健康を守り高めるための生物的・社会的諸原則を理解し、各種施策を開発する能力、保健・看護サービスを提供する能力を育成します。 ① 理科二類に在籍し、一般学生と同様の科目を履修するとともに、健康総合科学科が駒場で開講している総合科目D（人間・環境）「看護学概論」「ヘルス・サイエンス概論」などへ参加します。 ② 1年次より学科の教員（チューター）に、補習等に関する相談ができます。 ③ 夏季休業・秋季休業期間等を利用して研究室訪問・実習を行い、研究室が行っている研究課題及び大学院のプログラムに参加できます。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者としします。 ① 健康科学を通じて社会に貢献することを志向していること。 ② 高い基礎学力を有すること。 ③ 十分な語学力（英語力）を持つこと。 ④ チャレンジ精神に富み、忍耐力、柔軟性を持ち、自己を高めることのできる精神力を持つこと。 ⑤ 自然科学領域における高い能力及び科学的探究心を持つこと。 ⑥ チームの調整力、リーダーシップを有すること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す資料（少なくとも1つ、複

	数提出可〔ただし、A4で50ページを上限とする〕）の提出を求めます。 例えば、 ・ 高いチャレンジ精神を示す課外活動についての資料^{※a} ・ 高いリーダーシップ、チームの調整力を示す組織のリーダー的役割の経験を証明する資料^{※b} ・ 学内外における研究発表会・コンテストなどにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する資料^{※c} ・ 高い英語の語学力を示す資料^{※d} などです。以上は例示であり、これらの資料に限るものではありません。
(6) 面接等の方法	高等学校等からの提出書類・資料に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います^{※e}。その内容及び能力の確認のための質疑応答などを行い、適性を判断します。

※a A4用紙5ページ以内（およそ 8,000字以内）で具体的な体験内容を本人が説明する文章を添付してください。参加の証明書等が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

※b A4用紙3ページ以内（およそ 5,000字以内）で具体的な経験内容を本人が説明する文章を添付してください。活動内容を示す資料（広報等）があればコピーを添付してください。

※c これらに関連した以下の情報について記載した資料を提出してください。

- ・ 参加したコンテストの名称、参加年度
- ・ 学内外の研究会やコンテストにおける成績（個人かチームかについて明記してください）

参加、成績等の証明書が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

このほかに、学業や研究活動に対して表彰（都道府県レベル以上）を受けた場合は、受賞内容を記載した資料と、証明書のコピーを添付してください。

※d 語学力については、英検、TOEFL、IELTSなどの成績を示す書類を添付してください。

※e 面接審査に関連して以下の準備を行い、資料を提出してください。

- ・ 志願者は事前にパワーポイントファイルを作成し、面接審査の説明に使用してください。面接ではパワーポイントファイルを投影し、それを使って高等学校等在学中に行った自然科学・健康科学・人文科学等に関連した活動と大学入学後の抱負について10分程度で説明してもらいます。パワーポイントファイル及びプレゼンテーションの使用言語は、原則として日本語ですが、英語も使用できます。発表内容に関連した知識・能力について確認するための質問等を行う予定です。グループで行った活動の場合、本人の貢献した部分が明確になるように説明してください。

- ・面接でのプレゼンテーションの内容を事前に把握するため、発表の概略をA4用紙5ページ以内（日本語、図・表の使用可）で説明したものを出願時に提出してください。面接の際に使用するパワーポイントファイル自体を出願時に提出する必要はありません。
- ・第1次選考合格者は、面接に使用するパワーポイントファイルを令和8年12月8日（火）12時00分（正午）までに提出してください。
- ・面接の際には提出したパワーポイントファイルを大学側で用意したPCに入れて試験室のスクリーンに投影できるようにしますので、それを使ってプレゼンテーションしてください。
- ・Windows10以降のWindows、PowerPoint 2016以降のPowerPointを用いて作成してください。動画、音声を使ってはいけません。枚数制限はありませんが、10分程度のプレゼンテーション時間で説明できる長さにしてください。
- ・パワーポイントファイルをPDFファイルとしても保存し、正しく表示されているかを確認したのち、あわせて提出してください。大学側で用意したPCでパワーポイントファイルが正しく表示されない場合、PDFファイルを使ってプレゼンテーションをお願いすることもあります。
- ・提出するパワーポイントファイルについてのさらなる詳細については、後日第1次選考合格者に対して通知を行います。

過去の学校推薦型選抜入学者数等

令和 8 (2026) 年度

(人)

学部	募集人数	志願者			第 1 次選考合格者			最終合格者			辞退者	入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
法学部	10人程度	7	13	20	4	12	16	2	9	11	0	2	9	11
経済学部	10人程度	6	8	14	5	8	13	4	6	10	0	4	6	10
文学部	10人程度	5	9	14	5	5	10	3	2	5	0	3	2	5
教育学部	5人程度	7	9	16	5	8	13	2	5	7	0	2	5	7
教養学部	5人程度	18	11	29	8	2	10	3	2	5	0	3	2	5
工学部	30人程度	59	27	86	37	18	55	18	9	27	0	18	9	27
理学部	10人程度	30	11	41	17	4	21	9	0	9	0	9	0	9
農学部	10人程度	12	18	30	8	7	15	8	5	13	0	8	5	13
薬学部	5人程度	2	2	4	2	2	4	1	2	3	0	1	2	3
医学部 医学科	3人程度	3	5	8	3	3	6	1	0	1	0	1	0	1
医学部健康 総合科学科	2人程度	0	3	3	0	3	3	0	2	2	0	0	2	2
計	100人程度	149	116	265	94	72	166	51	42	93	0	51	42	93

令和 7 (2025) 年度

(人)

学部	募集人数	志願者			第 1 次選考合格者			最終合格者			辞退者	入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
法学部	10人程度	6	9	15	5	9	14	2	8	10	0	2	8	10
経済学部	10人程度	15	9	24	8	7	15	4	3	7	0	4	3	7
文学部	10人程度	10	10	20	8	7	15	5	2	7	0	5	2	7
教育学部	5人程度	4	12	16	1	11	12	0	7	7	0	0	7	7
教養学部	5人程度	11	13	24	6	8	14	1	2	3	0	1	2	3
工学部	30人程度	53	25	78	42	20	62	22	7	29	0	22	7	29
理学部	10人程度	18	8	26	10	7	17	5	3	8	0	5	3	8
農学部	10人程度	11	13	24	7	9	16	3	5	8	0	3	5	8
薬学部	5人程度	1	4	5	1	4	5	1	3	4	0	1	3	4
医学部 医学科	3人程度	6	4	10	4	2	6	1	1	2	0	1	1	2
医学部健康 総合科学科	2人程度	0	3	3	0	3	3	0	2	2	0	0	2	2
計	100人程度	135	110	245	92	87	179	44	43	87	0	44	43	87

令和 6 (2024) 年度

(人)

学部	募集人数	志願者			第 1 次選考合格者			最終合格者			辞退者	入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
法学部	10人程度	8	17	25	5	11	16	4	9	13	0	4	9	13
経済学部	10人程度	9	8	17	8	7	15	5	4	9	0	5	4	9
文学部	10人程度	6	11	17	3	9	12	2	5	7	0	2	5	7
教育学部	5人程度	5	13	18	3	9	12	2	3	5	0	2	3	5
教養学部	5人程度	9	8	17	5	5	10	2	2	4	0	2	2	4
工学部	30人程度	52	29	81	42	20	62	19	11	30	0	19	11	30
理学部	10人程度	28	12	40	15	7	22	8	4	12	0	8	4	12
農学部	10人程度	9	7	16	5	5	10	4	0	4	0	4	0	4
薬学部	5人程度	1	5	6	1	4	5	1	3	4	0	1	3	4
医学部 医学科	3人程度	10	6	16	4	3	7	1	1	2	0	1	1	2
医学部健康 総合科学科	2人程度	1	2	3	1	2	3	1	0	1	0	1	0	1
計	100人程度	138	118	256	92	82	174	49	42	91	0	49	42	91

令和5 (2023) 年度

(人)

学部	募集人数	志願者			第 1 次選考合格者			最終合格者			辞退者	入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計
法学部	10人程度	7	7	14	7	7	14	4	4	8	0	4	4	8
経済学部	10人程度	4	4	8	4	4	8	4	3	7	0	4	3	7
文学部	10人程度	8	10	18	6	8	14	4	4	8	0	4	4	8
教育学部	5人程度	7	12	19	3	9	12	1	3	4	0	1	3	4
教養学部	5人程度	15	18	33	9	5	14	3	1	4	0	3	1	4
工学部	30人程度	52	23	75	42	20	62	24	10	34	0	24	10	34
理学部	10人程度	39	9	48	19	5	24	7	1	8	0	7	1	8
農学部	10人程度	4	17	21	4	17	21	3	5	8	0	3	5	8
薬学部	5人程度	2	1	3	2	1	3	2	0	2	0	2	0	2
医学部 医学科	3人程度	4	9	13	2	5	7	1	3	4	0	1	3	4
医学部健康 総合科学科	2人程度	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1
計	100人程度	142	111	253	98	82	180	53	35	88	0	53	35	88

大学情報については、以下のサイトをご覧ください。



本学ウェブサイト。
大学全般の情報を発信しています。



<https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学をもっと知りたい
高校生・受験生のためのサイト。

学校推薦型選抜に関する照会先 …… 東京大学 入試事務室 学校推薦型選抜担当
nyuusi3.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp